



教員向け研修動画

活用の手引



教員向け研修動画

活用の手引

CONTENTS

- 03 この研修動画について
- 05 教材の流れ（概要）
- 06 教材の流れ（詳細）
- 26 「GIGAワークブック 教員向けオンライン研修」参加者の声

この研修動画について

研修の目的

GIGAスクール構想に対応した情報モラル教育実施を支援する、教員向け研修

GIGAスクール構想の中、児童・生徒が1人1台端末を活用するなどの教育現場の変化を受け、「情報モラル」と「情報活用」の育成がより重要となっています。私たちは、こうした環境変化に対応した活用型の情報モラル教材「GIGAワークブック」を用いた教員向け研修を勧めております。子ども達がネットの特性や適切なコミュニケーション方法、情報のリスクなどの「情報モラル」と、上手に情報やICTを活用し情報社会に参加していくための「情報活用」について学べる内容を充実させています。この機会に教育現場での情報モラル教育にお役立てください。

研修動画のねらい

活用型情報モラル教材「GIGAワークブック」と研修動画を活用することで 誰でも無理なく情報モラル教育が実施できる

小中高における情報モラル教育の実施をサポートするため、教員向けの研修動画「明日から実践できる活用型情報モラル教育」を制作し、LINEみらい財団のYouTubeチャンネルにおいて無償で公開しました。ご視聴いただいた先生方が「自分が明日から実践できる」ためのイメージをつかんでいただければ幸いです。

研修動画活用のポイント

複数人で動画を視聴することでワーク体験が可能 校内研修や復習として動画をご活用ください

- ・動画内のナレーションが研修を進行するよう制作しているので、動画を用いて学校のICT情報モラル教育担当者が、自ら校内研修を実施いただけます。
- ・実際の授業で行うグループワークも取り入れており、複数人で視聴することで、グループワークも体験いただけます。
- ・研修に参加できなかった教員にも個別で動画を視聴して学んでもらうことができます。
- ・研修を受講された教員にも繰り返し動画を視聴して理解を深めてもらうことができます。

授業の設定

■実施対象 小学校・中学校・高等学校（特別支援学校を含む）の教員・教育関係者

■実施時間 60分または90分

※特別支援学級での実施や日本語が苦手な児童・生徒が受講する場合、カードワーク等一部教材の意味を理解することが難しい場合があります。状況に応じて適宜サポートをお願いします。



準備するもの

研修担当者が準備するもの

- ① プロジェクター・スクリーン・パソコン 各1台
- ② 研修動画を流す準備
[LINEみらい財団 YouTubeチャンネル 研修動画](#)
- ③ 時間を計る時計またはストップウォッチ

研修受講者が準備するもの

- ① GIGAスクール端末（PCまたはタブレット）
 - ② GIGAワークブック スタンドアード
 - ③ GIGAワークブック 活用の手引 スタンドアード
- ※②,③は、研修担当者よりあらかじめ配布をお願いします。

研修動画画面

前ページ「準備するもの」欄に記した「LINEみらい財団 YouTubeチャンネル 研修動画」のリンクをクリックもしくは右のQRコードを読み込みと、次のような画面が開きます。「すべて再生」ボタンを押すと、最初から順番にすべての動画が再生されます。ワーク体験では適宜一時停止ボタンを押して動画を止めてください。



注：パソコンやタブレット横置き等、横長の画面または、高い解像度、またはウェブブラウザ等によって下図のようにタイトル部分が横に表示されることもあります。



PDFへの書き込みについて

本研修では実際にGIGAスクール端末を用いてワークシートPDFを開き、書き込み等のワークを体験いただきます。

以下の方法でPDFデータに書き込むことを推奨しております。

- ・ iPadの場合 [「ファイル」で開いて書き込む](#)
- ・ Chromebookの場合 [ギャラリーで開いて書き込む](#)
- ・ Windowsタブレット及びPC [WEBブラウザ「Microsoft Edge」で開いて書き込む](#)

iPadの場合



Chromebookの場合



Windowsタブレット 及びPCの場合

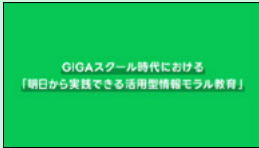


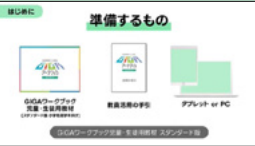
※自治体・学校様ごとで別途PDFへ書き込みができるアプリやツールのご用意がございましたら、そちらをご利用ください。

研修の流れ（概要）

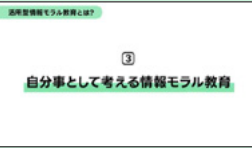
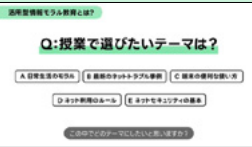
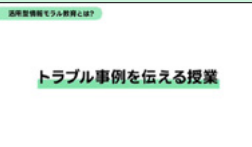
時間		学習内容	補足
60分 コース	90分 コース		
3分	4分	挨拶・導入説明 ・スマホを持ったり、ネットを使ったときの不安とは	
1分半		プロモーション動画「活用型情報モラル教材「GIGAワークブック」ショートVer.」 ・GIGAワークブックの概要を説明	動画を再生 / 視聴
8分		動画「#1 教員向け 明日から実践できる活用型情報モラル教育 ”活用型情報モラル教育とは？”」 ・情報モラル教育3つのポイント	動画を再生 / 視聴
20分	34分	動画「#2 教員向け 明日から実践できる活用型情報モラル教育 ”情報モラル教育を学ぼう”」 ワーク1：「自分と相手との違い」 ・いやな言葉や「されるといやなこと」は人によって違うことを理解する ワーク体験1 / ワーク体験2 ワーク2：「写真を公開する前に」 ・写真をネット上に公開することのリスクを理解する ・子ども達の「自律」を育むことを支援	動画を再生 / 視聴 90分研修の場合はワーク体験を2つとも行い、60分研修では、ワーク体験1のみを行います。
15分	25分	動画「#3 教員向け 明日から実践できる活用型情報モラル教育 ”情報活用能力を学ぼう”」 ・短い時間でも情報モラルの授業を行える、15分で学べる教材コンテンツを紹介 ワーク3：「上手な検索方法を学ぼう」 ・必要な情報を簡単に取得できる手法を学ぶ ワーク体験3 ワーク4：「データをすべて信じてよいのかな」 ・ネットセキュリティに関する知識を深める ワーク体験4 ワーク5：「相手に伝えるときには」 ・リスクだけでなく上手な情報活用と情報モラルをセットで学ぶ	動画を再生 / 視聴 90分研修の場合は、ワーク体験を2つとも行い、60分研修では、ワーク体験3のみを行います。
5分		動画「#4 教員向け 明日から実践できる活用型情報モラル教育 ”補足説明・まとめ”」 ・よくある質問の紹介 「どのような順番で進めればいいのか？」「自主学習でも利用できるか」 ・まとめ	よくある質問は「GIGAワークブック 活用の手引」のPDF、4ページに書かれている内容です。
5分	10分	研修担当者よりまとめ・ご案内 ・GIGAワークブックを各クラスでご利用いただくよう案内 ・研修動画のURLとアンケートについてご案内	案内チラシに研修動画QRとアンケート画面のQRを掲載しております。

研修の流れ (詳細)

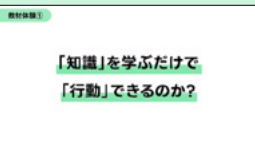
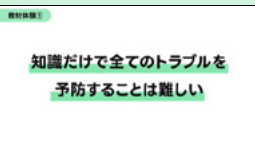
	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の対応ポイント
1	準備		※グレーの部分は、動画内のナレーションとなります。研修担当者の対応は不要です。 研修担当者は、パソコンで動画がすぐに流せるように準備しておく ※本書は、印刷して使用することを推奨します。	動画再生の準備
2	挨拶・導入説明		研修担当者 挨拶・導入説明 これから情報モラル教育研修を始めます。実際のワーク体験をしながら進めますので、『GIGAワークブック』教材の用意、パソコンの用意は問題ないでしょうか？今回は、動画を使いながら研修を行っていただきます。	※『GIGAワークブック』教材とは、各受講者の端末にダウンロードした2つのPDFファイルを表わします。
3	動画 活用型情報モラル教材「GIGAワークブック」シヨートVer.		まず最初に、今回の研修で使用する教材『GIGAワークブック』についての紹介動画をご覧ください。 研修担当者は、パソコン・プロジェクターで動画を投影 (受講者は視聴)	プロモーション動画再生 再生時間1分35秒
4	教材の種類の確認		動画でもご紹介がありましたが、GIGAワークブックは、小学校1～3年生向けのビギナー、4～6年生向けのスタンダード、中学・高校生向けのアドバンスドの3種類があります。本日は、スタンダードを使用して、実際のワークを体験していただきます。	実際に使用する教材は動画1の冒頭でも紹介します。
5	動画 #1 教員向け明日から実践できる活用型情報モラル教育 “活用型情報モラル教育とは？” イントロダクション	  	研修担当者は動画1を流す (受講者は視聴) (以下動画ナレーション) 活用型情報モラル教材「GIGAワークブック」。GIGAスクール時代における「明日から実践できる活用型情報モラル教育」 みなさんこんにちは 私はGIGAワークブック公式インストラクターです。 今回の動画では「明日から実践できる活用型情報モラル教育」をテーマに「GIGAワークブック」を使用した授業の実践について解説していきます。	動画1再生 再生時間7分46秒

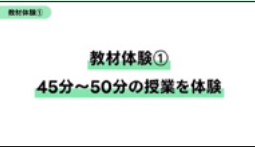
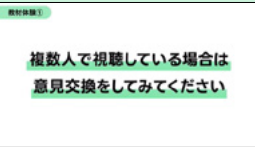
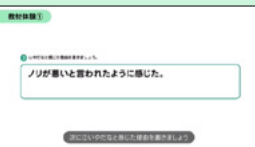
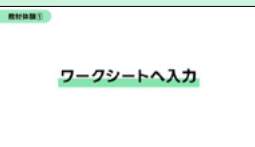
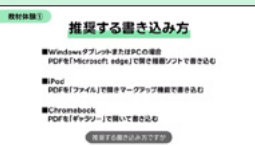
	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の 対応ポイント
6	GIGAワーク ブックの説明	はじめに  ※両方の学習に取り組めます はじめに 本日の目的  ※両方を実践することで 自分が明日から実践できる	※グレーの部分は、動画内のナレーションとなります。研修担当者の対応は不要です。 GIGAワークブックは、GIGAスクール構想で重要となっている「情報活用」と「情報モラル」、2つをセットで学ぶことができます。本日は「GIGAワークブック」を使った授業を実際に体験することで、先生自ら授業を行う際の教材の活用や進行の流れを把握してもらえればと思います。 ご視聴いただいた先生方が「自分が明日から実践できる」ためのイメージをつかんでいただければ幸いです。	
7	準備するもの	はじめに 準備するもの  ※GIGAワークブックの活用、活用型情報モラル教育教材、タブレット or PC 明日から実践できる 活用型情報モラル教育	今回の解説で準備するものはこちらの内容になります。 ・GIGAワークブック児童・生徒用教材 スタンドアード ・教員活用の手引 ・ワーク体験を行いますので、タブレットまたはPCをご用意ください。 この3点になります。 それでは、本日のテーマ「明日から実践できる活用型情報モラル教育」を始めます。	
8	本日の流れ	はじめに 動画の流れ 活用型情報モラル教育とは？ 教材体験① 教材体験② 補足説明・まとめ ※活用型情報モラル教育とは？を説明させていただきます。	こちらが流れになります。 まず「活用型情報モラル教育とは？」を説明させていただきます、その後、教材体験1、教材体験2で実際に授業で行うワークを2つ体験していただきます。最後に補足説明やまとめをお伝えします。	※90分研修では、ワーク体験は4つになります。
9	活用型情報モラル教育とは？	活用型情報モラル教育とは？ 活用型情報モラル教育とは？  ※両方に取り組めます 活用型情報モラル教育とは？ 情報モラル教育3つのポイント ① 情報活用能力の育成 ② GIGA端末の使用手法や目的の理解 ③ 自分事として考える情報モラル教育	活用型情報モラル教育とは？ 私たちは、これからの情報モラル教育は、「情報活用」と「情報モラル」セットで学ぶ必要があると考えており、これらを私たちは「活用型情報モラル教育」とよんでいます。 まず、私たちは、活用型情報モラル教育のポイントは主に3つと考えています。 1.情報活用能力の育成 2.GIGA端末の使用手法や目的の理解 3.自分事として考える情報モラル教育 です。 それでは、順番にご説明いたします。	

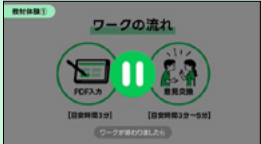
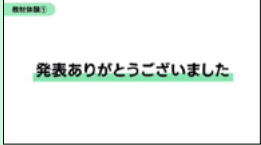
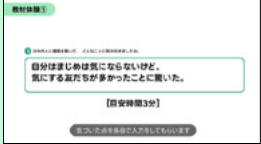
	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の 対応ポイント
10	情報モラル教育と情報活用能力はセットで考える	活用型情報モラル教育とは? ① 情報活用能力の育成 活用型情報モラル教育とは? 情報モラルとは? - 情報社会で適正な活動を行うための基となる考え方と態度 - 情報活用能力には情報モラルを含む さらに「情報モラル」の定義 活用型情報モラル教育とは? さらに「情報モラル」の定義 ② GIGA端末の使用法や目的の理解 活用型情報モラル教育とは? 1人1台端末下での指導実践 活用型情報モラル教育とは? トラブルの発生したタイミング 活用型情報モラル教育とは? 個人から校内での問題へ 活用型情報モラル教育とは? 学校内での最新トラブル事例 活用型情報モラル教育とは? 学校での情報モラル教育は重要 活用型情報モラル教育とは? ネットトラブルに対応した適切な教育が必要	※グレーの部分は、動画内のナレーションとなります。研修担当者の対応は不要です。 1つ目は「情報活用能力の育成」です。 ここで改めて、文部科学省が定義する情報モラル教育について整理してみましょう。 文部科学省からは、情報モラルについて「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」と説明されています。 さらに「情報活用能力」には「情報モラルを含む」という説明もあります。 これらの内容を踏まえ、情報モラル教育とは常に情報活用能力とセットで考えるべきと、読み取ることができます。 2つ目は「GIGA端末の使用法や目的の理解」です。ここでは、1人1台端末下での情報モラル指導の実態についてご紹介します。 GIGAスクール教育が本格化し、トラブルはどこで発生しているのか？ 「トラブルが発生したタイミング」を調査した結果がこちらになります。小中学校共に「学校外(家庭など)」の割合が高いのですが、校内でも起きており、特に中学校では「授業時間中」「授業時間外」がともに5割を超えています。 ここで注目すべきは、ネットトラブルが個人や家庭の問題ではなく、校内の問題にもなっている、ということです。 また、私たちが行った、学校で個別に対応したネットトラブルに関する最新の調査では、「長時間利用による生活習慣の乱れ」と「悪口・いじりなどのコミュニケーショントラブル」の結果が高く、それ以外についてもご覧のように起っています。 このように学校での情報モラル教育はより重要となっており、また、それぞれのトラブルに対応した、適切な教育が必要と言えます。	

	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の 対応ポイント
		     	※グレーの部分は、動画内のナレーションとなります。研修担当者の対応は不要です。 最後に3つ目は「自分事として考える情報モラル教育」です。私たちは子ども達に自分事として考えてもらうために「子どもたち主体」の授業、「自分事化」の工夫、「考える」を重視、この3つに重きを置き教材を開発してきました。 このように学校での情報モラル教育はより重要となっており、また、それぞれのトラブルに対応した、適切な教育が必要と言えます。 最後に3つ目は「自分事として考える情報モラル教育」です。私たちは子ども達に自分事として考えてもらうために「子どもたち主体」の授業、「自分事化」の工夫、「考える」を重視、この3つに重きを置き教材を開発してきました。 では、自分事として考えてもらうには、どういった方法を取ればよいのでしょうか？ ここで皆様に質問があります。もし情報モラル教育の授業を行うとしたら、この中でどのテーマにしたいと思いますか？ A 日常生活のモラル B 最新のネットトラブル事例 C GIGA端末の便利な使い方 D ネット利用のルール E ネットセキュリティの基本 1つ選んでいただけましたでしょうか？ B 最新のネットトラブル事例 を選んだ方が多いのではないのでしょうか？ 実際、教員向け研修の現場でもBを選ばれる方が多くみられます。 それでは、この「トラブル事例」について考えていきましょう。 先生方はこの「トラブル事例を伝える授業」を実施する場合に、大きな課題があることをご存じですか？ これまでの情報モラル教育での指導法では、トラブル事例を紹介し議論たり、映像教材を見せて、ネットの使い方を考えさせたりしてきました。	※各自AからEの中から思い浮かべてもらいましょう。

	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の 対応ポイント
			しかし、そうした指導では子ども達は「他人事」として捉えてしまうことが多く、「あんなトラブルにあってバカだな」や「自分とトラブル事例の主人公は関係ない」など、結果として、トラブルの予防や対策に繋がりにくいことが考えられています。 つまり、事例ベースの指導では他人事として考えてしまい、自分事として捉えないということです。 情報モラル教育を行う上で1番大切なことは、「子ども達にいかに関わりを持ってもらうか」ではないでしょうか？	
11	動画1のまとめ		それではここまでの内容をまとめます。 活用型情報モラル教育のポイントは ・ 情報活用能力の育成。 ・ GIGA端末の使用方法や目的の理解 ・ 自分事として考える情報モラル教育 この3つを兼ね備えたものです。 では、一体どのような教材なら実現できるのか？ 次は教材に触れていきましょう。 (動画1終了)	研修開始から動画終了まで 60分研修：約13分 90分研修：約14分
12	動画 #2 教員向け 明日から実践 できる活用型 情報モラル教育 ”情報モラル 教育を学ぼう”		動画2を流す (受講者は引き続き動画視聴) (以下動画ナレーション) 教材体験① 情報モラル教育を学ぼう それでは、実際のGIGAワークブックを開いてみましょう。 GIGAワークブックの目次を開いてください。 「ケータイ・スマホトラブル分類表」のページ数を確認し、開いてください。 なお、自治体様ごとの、GIGAワークブックで使用するページ数が異なる場合がございます。恐れ入りますが、各自で該当ページをご確認ください。	動画2再生 再生時間11分44秒※動画2は、動画1に続けて自動的に再生されます。もし再生されない場合は該当動画をクリックしてください。 ※自治体様オリジナルページを含むGIGAワークブックを使用する場合は、ページ数が異なる可能性があります。

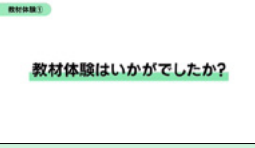
	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の 対応ポイント
13	ネットトラブルの分類について	 	では、ワークを進めます。 初めに、現在のネットに関するトラブルは大きく8つに分けることができます。 1「長時間利用」 2「高額課金」 3「不適切サイトの閲覧」 4「出会い」 5「著作権の侵害」 6「不適切情報の発信」 7「個人情報の投稿」 8「悪口・いじり」 では、こういったトラブルに対しどのような対策が考えられるのでしょうか？	
14	事例ベースでなく、子ども達に自分事として考えてもらうため「カード分類比較法」を使う研修である	      	そこで思い浮かぶのは、冒頭でも触れましたが、トラブル事例やネットの危険性を伝えて、知識を学ぶ方法です。 では、本当に「知識」を学ぶだけで、トラブルを起こさないように、「行動」を取ることはできるのでしょうか？ 当教材を監修した、静岡大学の塩田准教授の研究によれば、知識の有無がトラブルを起こす行動に影響を及ぼすものもあります。 例えば、不適切サイトの閲覧や著作権の侵害などが該当します。 しかしながら、知識の有無に関係なく起きてしまうトラブルもあります。主に、コミュニケーショントラブルと言われる不適切な情報の発信や、悪口・いじりのトラブルが該当します。つまり、知識を身に付けるだけで、すべてのトラブルを予防することは難しいと言えるのです。 また、事例ベースの指導では、先ほど説明したように自分事として考えること難しい一面もあります。 以上のことを踏まえて、どのような指導をすればいいのでしょうか？ ここからは、「カード分類比較法」を用いることで子ども達に自分事として考えてもらい、主にコミュニケーショントラブルへの対応として活用できる教材を皆様に体験いただきたいと思います。	

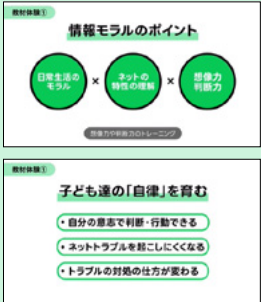
	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の 対応ポイント
15	ワーク1: 自分と相手との ちがいを	    	※グレーの部分は、動画内のナレーションとなります。研修担当者の対応は不要です。 GIGAワークブックの目次を開いてください。 「自分と相手とのちがいを」のページ数を確認し、開いてください。 まず、「自分と相手とのちがいを」、「写真を公開する前に」の2つを皆様に体験していただきます。 なお、お時間の都合上、「写真を公開する前に」は、教材の概要紹介のみとなりますので、あらかじめご了承ください。 最初の教材体験①では、複数のワークを使用し、45～50分の授業を体験していただきます。 また実際の授業では、児童・生徒自身でPDFに入力してもらい、グループで意見交換をするワークの時間もございます。 本研修動画を複数人で視聴している場合は、ぜひ近くの方と意見交換をしてみてください。	※自治体様オリジナルページを含むGIGAワークブックを使用する場合は、ページ数が異なる可能性があります。 この研修では、途中で10～20分ほどの体験を想定しています。
16	ワーク体験1 の概要説明	     	それでは、「自分と相手とのちがいを」を開いてください。また、モデル指導案は活用の手引にございますので、ぜひご参照ください。 皆様にまずチャレンジしていただきたいのは①②となります。 ① あなたが、クラスの友達から言われて、1番「いやだな」と感じる言葉を1つ選んでみましょう。 カードが5種類ございますので、1番「いやだな」と感じる言葉の、右上に1つチェックを入れてください。 次に、②いやだなと感じた理由を書きましょう。 それではワークシートに入力してみましょう。目安の時間は3分間です。 授業で実施する際、ワークが終わらない児童・生徒がいましたら、適宜延長するなどしてください。 推奨する書き込み方法ですが、各端末に応じた方法をご紹介します。 こちらの方法でお試してください。	タブレットまたはパソコンで開いた「GIGAワークブック」のPDFに記入してください。 PDFへの記入の仕方は、端末によって異なりますので、あらかじめ受講者には共有しておくようにしてください。 ※本書冒頭に記した端末ごとのPDF記入方法のウェブサイトも参照。

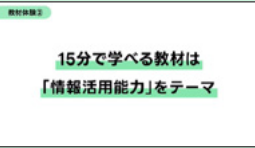
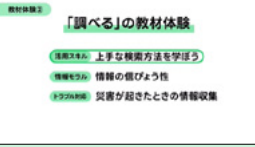
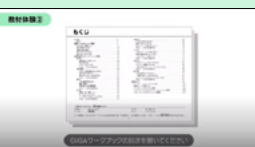
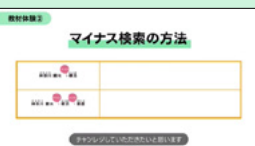
	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の 対応ポイント
		 	※グレーの部分は、動画内のナレーションとなります。研修担当者の対応は不要です。 書き込みが終わりましたら、児童・生徒同士で話し合いをしていただきます。 3分間～5分間程度時間を取り、4人～5人程度のグループを作ってください。 話し合った後は、クラス全体でも共有をしましょう。 本動画を視聴しながらワークを体験する方は、動画を止めて入力してください。 複数人と視聴される方は、ワークが終わりましたら、周囲の方へ聞いてみましょう。	
17	ワークシートへの書き込み グループで意見交換→意見の発表		研修担当者は動画を一時停止する。 「それでは3分間お時間をいただきます。各自でワークシートにご記入ください。」 (受講者はワークシートへ記入) 3分経過後 「3分たちました。皆さん、記入は終わりましたか？」 「それではグループで（または隣の人と）3分間、意見交換してください。」 (受講者は周囲の方と意見交換を実施) 3分経過後 「3分たちました。意見交換できましたか？」 「どんな意見があったか、何人か発表をお願いします」 2～3名を指名し、意見を聞く。 「解説に進みますので、動画を再生します。」	動画を一時停止。 3分間計る。 各自でワークPDFへ記入をする。 ※時間は様子をみて、延長してください。 時間を考慮して、発表は省略してもよいでしょう。
18	ほかの人の意見を聞いて気が付いたことを記録	  	研修担当者は動画の再生ボタンを押す (以下動画ナレーション) 皆様、発表ありがとうございました。 ③ほかの人に意見を聞いて、どんなことに気が付きましたか？ 実際のワークでは、こちらも3分間時間を取るのので、気づいた点を各自で記入をしてもらいます。正解や不正解はありません。自分が感じたことを書いてもらうことが、このワークの目的となります。	一時停止していた動画を再生します。

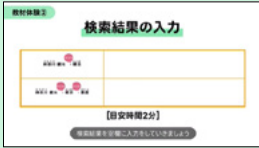
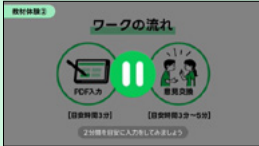
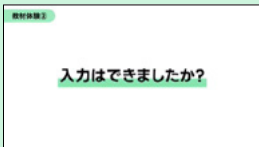
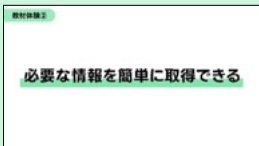
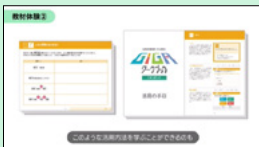
	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の 対応ポイント
19	ワーク「自分 と相手とのち がいを」解説	教材収録！ 皆様の意見はどうでしたでしょうか？ 教材収録！ 実際の子ども達の意見  「自分の考え」と「友だちとの考え」 の違いに驚きをみせます 教材収録！ 嫌な言葉は人によって違うことを 理解するワーク	それでは解説をします。 皆様の意見はどうでしたでしょうか？ 実際のワークでは 「マイペースはノロマと感じる」や 「まじめは馬鹿にされていると思う」など こちらはあくまで1例ですが、様々な意見が出てくるようです。 子ども達は自分の考えと友達との考えが違うことに驚きをみせたりします。 「いやだな」と感じるものは人によって違うということを理解してもらうワークとなっています。	
20	ワーク体験2 概要説明	教材収録！  教材収録！ 知らない人に聞かれると怖いから 教材収録！ ワークの流れ 	次のページに進みます。 ①では、カードが5種類あります。 あなたが、SNSなどでクラスの友達からされて「いやだな」と感じるカードの番号を左から順番に入力していきます。 ②-A 1番いやだと感じるカードを選んだ理由を書きましょう。 ③-B 1番いやではないと感じるカードを選んだ理由を書きましょう。 このワークでは、自分の考えを書き込む時間を3分間程度とり、その内容について、グループで3分間～5分間程度お互いのタブレットを見せ合って話し合います。 本動画を視聴しながらワークを体験する方は、動画を止めて入力してください。	
21	ワークシート への書き込み グループで意見交換→意見の		研修担当者は動画を一時停止する。 ※60分研修の場合は省略。一時停止せず、動画視聴を続ける。 「それでは3分間お時間をいただきます。各自でワークシートにご記入ください。」 (受講者はワークシートへ記入)	動画を一時停止。 3分間計る。 各自でワークPDFへ記入 ※時間は様子をみて、延長してください。

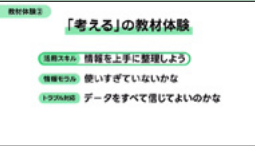
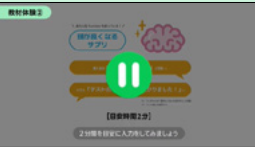
	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の対応ポイント
			※グレーの部分は、動画内のナレーションとなります。研修担当者の対応は不要です。 3分経過後 「3分たちました。皆さん、記入は終わりましたか？」 「それではグループで（または隣の人と）3分間（または5分間）、意見交換してください。」 （受講者は周囲の方と意見交換を実施） 3分（または5分）経過後 「3分（または5分）経ちました。意見交換できましたか？」 「どんな意見があったか、何人か発表をお願いします」 2～3人を指名し、意見を聞く。 「解説に進みますので、動画を再生します。」	※90分研修の場合、5分間グループで意見交換を実施ください。 時間を考慮して、発表は省略してもよいでしょう。
22	ワーク体験2 解説 人によって感じ方は違う	教材収録！ 発表ありがとうございました 教材収録！ されると嫌なことは人によって違うことを理解するワーク	研修担当者は動画の再生ボタンを押す （以下動画ナレーション） 皆様、発表ありがとうございました。 皆様の意見はどうでしたか？ 先ほどのワークでは、言われると「いやだな」と感じる言葉を考えましたが、されると「いやなこと」も人によって違う、ということを理解するワークとなっています。	一時停止していた動画を再生します。
23	（紹介のみ） ケーススタディ 相手の気持ちを考えながら行動をする必要がある。	教材収録！  教材収録！  教材収録！ 「相手」と感じ方の違いがトラブルの原因になる 教材収録！  教材収録！ 相手の気持ちを考えながら行動する	次のページになります。 こちらは紹介のみとなります。 ケーススタディとして「たかしさんと花子さんにどんなトラブルが起きる可能性があるか、考えてみましょう」という内容です。 たかしさんの「いやなことのカード」と花子さんの「いやではないと思っているカード」をみて、ギャップをベースに考えていくと、いろいろなトラブルが想像できるのではないかと思います。 こうした相手と自分との様々な感じ方の違いが、トラブルの原因になるということを学ぶことができます。 「ネットの特性」をご覧ください。 文字だけで伝えると、その時の「感情」が伝わらないので相手に誤解されることがあります。 そのため相手の気持ちを考えながら行動をする必要がある、 そのようなことを感じ学ぶことができるのが、この教材の特徴となっています。	

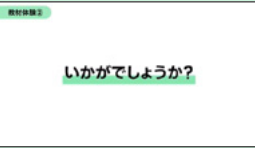
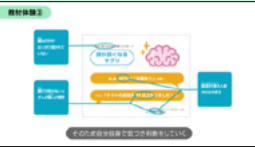
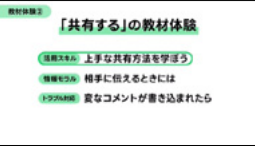
	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の 対応ポイント
24	(紹介のみ) ワーク2： 写真を公開する前に	  	※グレーの部分は、動画内のナレーションとなります。研修担当者の対応は不要です。 次のページに進んでください。 「写真を公開する前に」を紹介します。 どの写真をネットに公開をしたいと思いますか？ 写真の取り扱い方について考える内容となっています。 こちらの教材を使いながら、先ほどのように直接入力してもらい、考えていくということを繰り返し行い学んでいきます。 次のページではこのような質問があります。ネットに公開されたら「いやだな」と感じる写真を1つ選んでみましょう。 ここは、それぞれの人の感覚の違い、お互いの感じ方の違いを知り、写真をネット上で公開する時、どのようなことに気を付ければいいのか、考える内容となっています。	
25	ワーク2まとめ		最後にまとめのページになります。 写真をネット上に公開することのリスクをしっかりと理解し、その上で、写真を公開しても問題ないかどうかを判断する。 そうしたことを学ぶ内容となっています。	
26	情報モラル教育のまとめ 子どもたちの「自律」を育む	    	こちらの教材については、活用の手引にも詳しい説明があります。合わせてご確認ください。 皆様、ここまで教材の体験はいかがでしたか。 本教材では、何が悪口なのか、何が不適切な写真なのか、何が使いすぎなのかをカード分類比較法を用いて話し合います。こうした話し合いを行うことで、「もしかしたら自分もやってしまっているかも」という自分事として捉えることが期待できます。この動画の終わりに、私たちが考える、情報モラル教育のポイントについて触れておきましょう。それは、 ・日常生活のモラル ・ネットの特性の理解 ・想像力や判断力のトレーニング この3つを通して子ども達の「自律」を育むということです。 自律を育めば、自分の意志で判断し行動ができるようになり、ネットトラブルを起こしにくくなります。	

	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の対応ポイント
			※グレーの部分は、動画内のナレーションとなります。研修担当者の対応は不要です。 また、たとえトラブルに巻き込まれたとしても、対処の仕方も変わってくるのではないのでしょうか。GIGAワークブックは子ども達の「自律」を支援する教材としてもお使いいただけるかととてもうれしく思います。 (動画2終了)	研修開始から動画2終了まで 60分研修：約34分 90分研修：約50分
27	動画 #3 教員向け 明日から実践できる活用型 情報モラル教育 “情報活用能力を学ぼう” 15分で学べる教材コンテンツについて		動画3をそのまま流す (受講者は引き続き動画視聴) (以下動画ナレーション) 教材体験② 情報活用能力を身につけよう ワークに入る前にお伝えしたいのは、情報モラルの指導の時間をどう確保するかということです。 学習環境の大きな変化により、情報モラルについて指導する時間の確保を難しく感じている先生方もいらっしゃると思います。 そこで、本日ご紹介している、GIGAワークブックですが、指導できる時間がどの程度確保できているかに応じて、教材を選択することもできます。 例えば、じっくり考える時間の確保ができた場合には、先程皆様に体験いただいた、45分で学べる教材をお使いください。 一方、45分以上の時間の確保が難しい場合には、15分単位で学べる教材も用意しています。 それではここからは、15分で学べる教材コンテンツについて詳しくご紹介します。	動画3再生 再生時間7分37秒 ※動画3は、動画2に続けて自動的に再生されます。もし再生されない場合は該当動画をクリックしてください。

	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の 対応ポイント
28	情報活用能力 をテーマとし た8場面×3 テーマ=24個 の教材がある	   	こちらの教材では、主に「情報活用能力」をテーマにしています。 ICTの活用8つの場面を設定し、さらに8つの場面の中で必要となる「活用スキル」「情報モラル」「トラブル対応」この3つのテーマに基づいた教材となっております。8つの場面ごとに3つのテーマになりますので、合計24個の教材があることになります。 まずは、ICTの活用8つの場面の中から「調べる」の教材を皆様に体験いただきます。	動画3再生 再生時間7分 37秒 ※動画3は、 動画2に続けて自動的に再生されます。 もし再生されない場合は該当動画をクリックしてください。
29	「調べる」場面		こちらの教材では、上手な検索方法を学ぼう、情報の信ぴょう性、災害が起きたときの情報収集、といったテーマがあり、それぞれ15分単位で学ぶことができます。 これら3つのテーマの中から活用スキルの「上手な検索方法を学ぼう」を体験していただきます。	ICTの活用8つの場面のうちの「調べる」場面についてです。
30	ワーク3： 上手な検索方法 を学ぼう ワーク体験3 概要説明	   	GIGAワークブックの目次を開いてください。 「上手な検索方法を学ぼう」のページ数を確認し、開いてください。 それではワークに進みます。 「友達と一緒に神奈川県に遊びに行くことになったので、どんな観光地があるのか調べることにしました。以下の4つの方法で検索をしてみましょう。どのような場所が出てくるでしょうか」という問題です。 今回は、この2つをチャンレジしていただきたいと思います。 「神奈川県 観光 マイナス 横浜」 「神奈川県 観光 マイナス 横浜 マイナス 鎌倉」 マイナス検索の方法について学びます。ネット検索をしてみましょうGoogleやYahoo! など、検索サイトを立ち上げていただき、マイナス検索を行ってみましょう。	※自治体様オリジナルページを含むGIGAワークブックを使用する場合は、ページ数が異なる可能性があります。 ※マイナス(-)は半角で入力する必要があります。

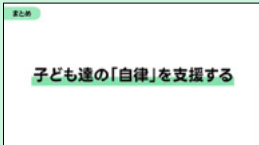
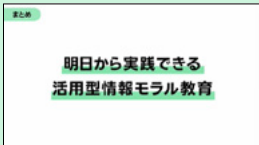
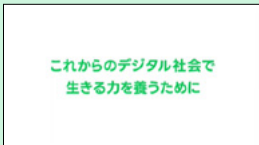
	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の対応ポイント
		 	※グレーの部分は、動画内のナレーションとなります。研修担当者の対応は不要です。 検索結果を、空欄に入力をしていきましょう。この後、お互いにどんな結果が出たのか、情報共有をしていただく流れになっています。動画を一時停止し、2分間を目安に入力をしてみましょう。	
31	ワークシートへの書き込み グループで意見交換		研修担当者は動画を一時停止する。 「それでは2分程お時間をいただきます。各自でワークシートにご記入下さい。」 (受講者はワークシートへ記入) 2分経過後 「2分たちました。皆さん、記入は終わりましたか？」 「それではグループで（または隣の人と）3分間（または5分間）、意見交換してください。」 (受講者は周囲の方と意見交換を実施) 3分（または5分）経過後 「3分（または5分）たちました。意見交換できましたか？」 「マイナス検索でどんな情報が出てきたのか、また意見感想など、何人か発表をお願いします。」 1～2名を指名し、意見を聞く。 「解説に進みますので、動画を再生します。」	動画を一時停止。 2分間計る。各自でワークPDFへ記入。 ※時間は様子をみて、延長してください。 ※90分研修の場合、5分間グループで意見交換を実施ください。 時間を考慮して、意見交換や発表は省略してもよいでしょう。
32	「上手な検索方法を学ぼう」解説	  	* 研修担当者は動画の再生ボタンを押す (以下動画ナレーション) 皆様入力はできましたか？ マイナス検索方法はご存じでしたでしょうか？この方法を使用すると、自分の必要な情報を簡単に取得できるようになります。このような活用方法を学ぶことができるのも、GIGAワークブックの特徴となっております。活用の手引に、詳しい解説もございますので、ぜひご参照ください。	一時停止していた動画を再生します。

	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の対応ポイント
33	ワーク4：データをすべて信じてよいのかな ワーク体験4 概要説明	    	※グレーの部分は、動画内のナレーションとなります。研修担当者の対応は不要です。 続いては、「考える」の教材です。 こちらの教材では、「情報を上手に整理しよう」、「使いすぎていないかな」、「データをすべて信じてよいのかな」といったテーマがあります。 ここからは、トラブル対応の「データをすべて信じてよいのかな」を体験していただきます。 GIGAワークブックの目次を開いてください。 「データをすべて信じてよいのかな」のページ数を確認し、開いてください。 あなたが、端末で「テストの点数を上げる方法」についてインターネットで調べていると、次のサイトを見つけました。 このサイトの内容はすべて信じてもいいのでしょうか？ このサイトのおかしなところに○をつけて、その理由を書いてみましょう 動画を一時停止し、2分間を目安に入力をしてみましょう。	ICTの活用8つの場面のうちの「考える」場面についてです。
34	ワークシートへの書き込み 時間があれば、グループで意見交換		研修担当者は動画を一時停止する。 ※60分研修の場合は省略。一時停止せず、動画視聴を続ける。 「それでは2分程お時間をいただきます。各自でワークシートにご記入下さい。」 (受講者はワークシートへ記入) 2分経過後 「2分たちました。皆さん、記入は終わりましたか？」 「それではグループで（または隣の人と）3分間、意見交換してください。」 (受講者は周囲の方と意見交換を実施) 3分経過後 「3分たちました。意見交換できましたか？」 「それでは、何人が発表をお願いします。」 1～2名を指名し、意見を聞く。 「解説に進みますので、動画を再生します。」	枠体験4を行うのは90分研修のみ 動画を一時停止。 2分間計る。 各自でワークPDFへ記入。 ※時間は様子をみて、延長してください。 時間を考慮して、発表は省略してもよいでしょう。

	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の対応ポイント
35	「データをすべて信じてよいのかな」解説	    	研修担当者は動画の再生ボタンを押す (以下動画ナレーション) いかがでしょうか？ どのようなところにチェックしましたか？ 次のページを開きますとこのように注意するポイントを解説しています。 インターネットをみるときに、フィルタリングでは判断ができません。そのため、自分自身で気づき、判断をしていく必要があります。このような着目点に注意ができるかが重要になります。 本教材では、このように議論をするだけでなく、セキュリティ上、気を付けた方がいいことを図で示し、ネットセキュリティに関する知識も深めてもらうことができます。 活用の手引に、解説がございましたのでご参照ください。	一時停止していた動画を再生します。
36	(紹介のみ) ワーク「相手に伝えるときには」	     	最後は、「共有する」の教材です。こちらの教材では、上手な共有方法を学ぼう、相手に伝えるときには、変なコメントが書き込まれたら、といったテーマがあります。 情報モラルの「相手に伝えるときには」をご紹介しますが、時間の都合上、教材の概要説明のみとさせていただきます。ご了承ください。 GIGAワークブックの目次を開いてください。 「相手に伝えるときには」のページ数を確認し、開いてください。 ワークは今回省略させていただき、スライドのみをご紹介します。 4つの伝え方について、あなたが褒められていると感じる順に並べてください。 正解・不正解はなく、こちらも意見交換をしていくものになります。 こちらがまとめのページになります。この教材は情報モラルの教材ですが、15分で学べる教材となっています。 また活用の手引にも解説がございましたので、後ほどご参照ください。	※時間次第でこちらは省略可。省略する場合は、動画の7:45の位置までスキップしてください。 ICTの活用8つの場面のうちの「共有する」場面についてです。 ※自治体様オリジナルページを含むGIGAワークブックを使用する場合は、ページ数が異なる可能性があります。

	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の 対応ポイント
37			皆様ここまでの教材体験はいかがでしたか？ 今までの情報モラル教育では、情報のリスクのみが強調されることが多くありました。本教材では、リスクだけではなく、上手な情報活用と情報モラルをセットにして学ぶことができます。 教材体験は以上となります。最後に、補足説明と研修のまとめとなります。 (動画3終了)	研修開始から動画3終了まで 60分研修：約50分 90分研修：約73分
38	動画 #4 教員向け 明日から実践 できる活用型 情報モラル教育 ”補足説明・まとめ”		動画4をそのまま流す (受講者は引き続き動画視聴) (以下動画ナレーション) 補足説明 GIGAワークブック活用の手引に、よくある質問があります。いくつかご紹介します。 最初の質問です。	動画4再生 再生時間4分 46秒 ※動画4は、 動画3に続けて自動的に再生されます。 もし再生されない場合は該当動画をクリックしてください。
39	よくある質問		Qどのような順番で進めればよいですか？ 本教材は、最初から順番に進める必要はありません。 端末を使って「写真を撮る」「共有する」といった時や、ネットトラブルを学ばせたい時、活用の場面場面で、必要な教材を選ぶことができます。15分・45分と区切りがあるので、学校の年間カリキュラムに差し込むこともできます。 また、指導計画サポートブックも作成しています。 年間指導計画例で「総合」や「学活」などの時間だけでなく、「国語」「理科」「美術」など各教科の授業内でも情報モラル教育を無理なく取り入れ、継続して実施できるよう設計しています。こちらもぜひご活用ください。 続いての質問になります。	「GIGAワークブック 指導計画サポートブック」は、本日受講者にお配りしている「活用の手引き」には含まれません。別途以下よりダウンロードしてください。 https://line-mirai.org/ja/events/detail/100

	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の 対応ポイント
40		確認説明 Q: 自主学習でも利用できますか? 本教材は 自主学習でもご利用いただけますが、ドリル学習のように一問一答形式ではありません。おすすめは、教材体験で行ったように授業の中で、個人で考えてからグループで共有する方法です。正解・不正解ではなく、子ども達が話し合っていくことで、多様な考えに触れることを目的としています。 確認説明  確認説明 「議論するテーマ」と「正解に近い表現のテーマ」を混同されないようご注意ください	Q自主学習でも利用できますか？ 本教材は、自主学習でもご利用いただけますが、ドリル学習のように一問一答形式ではありません。おすすめは、教材体験で行ったように授業の中で、個人で考えてからグループで共有する方法です。 正解・不正解ではなく、子ども達が話し合っていくことで、多様な考えに触れることを目的としています。 また、GIGAワークブックでは議論するためのワークが中心ではありますが、一部には正解に近い表現が使用されていることもありますので、区別が必要です。 こちらは、ネットセキュリティに関するページなのですが「ここは注意したいよね」という箇所がはっきりと示されています。 このようなネットセキュリティをテーマとした教材では、「議論するテーマ」と「正解に近い表現のテーマ」を混同されないようご注意ください。	
41		確認説明  確認説明 発達段階に応じて活用  確認説明 	本日、皆様に体験していただいたGIGAワークブック。 子ども達の発達段階や学校の環境といった、様々な状況に応じてご利用いただけます。 本日ご紹介できなかったページもたくさんありますので、この後もぜひ他のページをご覧ください。	
42	まとめ	まとめ 情報モラル教育3つのポイント ① 情報活用能力の育成 ② GIGA端末の使用法や目的の理解 ③ 自分事として考える情報モラル教育	まとめ 最後に今回のまとめをお話いたします。 活用型情報モラル教育のポイントです。 ・ 情報活用能力の育成 ・ GIGA端末の使用法や目的の理解 ・ 自分事として考える情報モラル教育 この3つがポイントになります。 GIGAワークブックは、明日から実践できる活用型情報モラル教材です。	

	学習内容	スライド	進行例	研修担当者の 対応ポイント
		     	※グレーの部分は、動画内のナレーションとなります。研修担当者の対応は不要です。 子ども達と一緒に考え、子ども達の考えを活かし、子ども達と共に取り組む。 それは結果として子ども達の「自律」を支援することにもつながります。 子ども達に教える授業から、子ども達と一緒に考える授業へ。GIGAワークブックで始めてみませんか？ ぜひGIGAワークブックを使って、楽しい活用型情報モラル教育を始めてもらえたらと思います。 こちらの動画が参考になりましたら幸いです。 「明日から実践できる活用型情報モラル教育」は以上となります。 ご視聴いただき、誠にありがとうございました。 これからのデジタル社会で生きる力を養うために 研修動画終了（動画を閉じる）	研修開始から動画4終了まで 60分研修：約55分 90分研修：約78分
43	研修担当よりまとめ		研修担当者よりご案内 「皆さん、お疲れさまでした。 GIGAワークブックの教材は〇〇に掲載しています。（または“メールで送ります”）ダウンロードができます。 朝の自習時間や、教科ごとにも取り入れることもできます。教材をみて、各クラスで授業を実施していきましょう。 研修動画は再度視聴したい方は、LINEみらい財団のYouTubeチャンネルから視聴ができますので復習をしてみてください。」	自治体様でGIGAワークブックの案内をお願いします。 （自治体のHPに掲載をしている案内や、メールで参加者へ送るなど）

タイムスケジュール

内容	60分コース	90分コース
挨拶・導入	3分	4分
プロモーション動画	1分36秒	1分36秒
動画 1	7分47秒	7分47秒
ここまでの小計	12分23秒	13分23秒
動画2／解説／ワーク 1 説明	5分30秒	5分30秒
ワーク 1 体験（記入）	3分	3分
ワーク 1 体験（意見交換）	3分	5分
ワーク 1 体験（発表）	3分	3分
動画 2 続き／解説／ワーク 2 説明	2分	2分
ワーク 2 体験（記入）	-	3分
ワーク 2 体験（意見交換）	-	5分
ワーク 2 体験（発表）	-	3分
動画 2 続き／解説／まとめ	4分15秒	4分15秒
動画 2 のみ小計	20分45秒	33分45秒
動画 3 ／解説／ワーク 3 説明	3分30秒	3分30秒
ワーク 3 体験（記入）	2分	2分
ワーク 3 体験（意見交換）	3分	5分
ワーク 3 体験（発表）	3分	3分
動画 3 続き／ワーク 4 説明	1分30分	1分30分
ワーク 4 体験（記入）	-	2分
ワーク 4 体験（意見交換）	-	3分
ワーク 4 体験（発表）	-	3分
動画 3 続き／解説／まとめ	2分38秒	2分38秒
動画 3 のみ小計	15分38秒	25分38秒
動画 4	4分46秒	4分46秒
まとめ	5分	10分
最終パート小計	9分46秒	14分46秒
合計	58分32秒	87分32秒

「GIGAワークブック 教員向けオンライン研修」 参加者の声

動画のベースとなった「GIGAワークブック 教員向けオンライン研修」を受講いただいた教員の声を紹介します。

「GIGAワークブック 教員向けオンライン研修」を受講された方563名にアンケートを実施しました。
「研修内容は参考になったか？」という質問に対して「とても参考になった・参考になった」という回答が合計で530人（約94%）と、多くの方に好評をいただいています



※教員向け研修オンライン出前授業終了後アンケート調査 対象：教育関係者563人に実施 期間：2022年11月-2023年7月

受講された教員の感想をご紹介します。

・模擬的な体験をさせてもらったので、授業イメージがつかみやすかったです。

（小学校高学年 教員）

・早速校内で周知を行い、授業の中でも取り入れたいと思いました。

（小学校高学年 教員）

・実際にPDFで操作体験させてもらったことで、実際に子どもにもできそう。

（小学校低学年 教員）

・テキストブックを使用しての取り組みや、情報モラルをみんなで考えて議論していくというところがとても参考になりました。カード分類比較法が良いと思いました。

（中学校・高校 教員）



教員向け研修動画

活用の手引

GIGAワークブック 教員向け研修動画 活用の手引

初 版

発 行 日 2023年10月10日

制 作 一般財団法人LINEみらい財団

協 力 ソフトバンク株式会社
 LINEヤフー株式会社

LINE みらい財団

SoftBank

YAHOO! JAPAN まっす